

ラーニング・コモンズを核とする大学図書館の新しい環境整備に関する研究

STUDY FOR THE ENVIRONMENTAL DESIGN OF LEARNING COMMON IN THE LIBRARY OF UNIVERSITY

鈴木 明 デザイン学部環境・建築デザイン学科 教授
 小山 明 デザイン教育研究センター 教授
 赤崎 正一 デザイン学部ビジュアルデザイン学科 教授
 藤山 哲朗 デザイン学部環境・建築デザイン学科 准教授
 久慈 達也 図書館 研究員

Akira SUZUKI Department of Environmental Design, School of Design, Professor
 Akira KOYAMA Center for Design Studies, Professor
 Shoichi AKAZAKI Department of Visual Design, School of Design, Professor
 Tetsuro FUJIYAMA Department of Environmental Design, School of Design, Associate Professor
 Tatsuya KUJI Library, Researcher

要旨

デジタル情報技術の導入によって大学図書館における閲覧や学習の方法が大きく変貌した。情報ネットワークにつながることで、図書館所蔵の資料と閲覧空間の仕切りが曖昧になりつつあるが、「ラーニング・コモンズ」は、このような図書館をめぐる状況における、図書館の閲覧と学習環境整備の新しい考え方を示している。本研究は、「新しい時代の図書館研究会」メンバーを中心とした研究会の活動で得た知見とネットワークを通じて、大学図書館にアンケート調査を行い、その分析を行った。

ラーニング・コモンズが提唱される以前から、すでに公共、大学を問わず図書館における閲覧のスタイルと閲覧環境は、すでに大きな変貌を遂げている。インターネットを通じたさまざまな情報収集やコミュニケーションは、すでに市民権を得ているからである。一方、大学図書館において、情報リテラシーに基づいた学習と研究のための方法論は、いまだ確立されていない。そのためラーニング・コモンズという新しい環境整備の理念と方法論が必要であり、先験的な大学図書館では、この言葉を用いずとも、すでに実践を始めていることがわかった。

Summary

The way people browse and study at university libraries has changed significantly as IT was introduced and spread rapidly. The boundary between university archives and reading rooms has become ambiguous as resources at libraries increasingly became available online. 'Learning Commons' demonstrates the new concept of browsing and learning at libraries on the back of universal access to IT. We conducted a survey for university libraries across Japan and have received a number of questionnaire back. In fact, the environment surrounding libraries, regardless of their public, private, or academic functions, has changed markedly long before the concept of "Learning Commons" was introduced. What we discovered through the survey is, however, that a majority of university libraries have not yet established any systematic way of educating users how to use IT to maximise their learning opportunities. Although having said that, we did find that there are several university libraries that have started distributing progressive know-how to users unconsciously adopting the concept of "Learning Commons".

1. 目的

本研究は、大学図書館における現代的な閲覧環境の現状をさぐることを目的とする。具体的には「ラーニング・コモンズ」を導入、または導入を検討している国内大学図書館にアンケートを依頼、情報機器の設置状況と可能性、ウェブを通じた（オンライン）活動および施設内（オフライン）活動、施設設備状況の現状と将来像を伺い、その回答および自由記述のデータを元に、新しい大学図書館における環境整備の動向を探った。さらに美術系・デザイン系大学における図書館・資料館の閲覧環境整備の方向を探ることを目的として、建築図面、家具やポスター・アーカイブなど、具体的な事物資料を収蔵する図書館とアーカイブを調査し、デジタル時代の資料のフォーマットと閲覧方法を探った。

アンケートとは別に iPad など電子書籍リーダーを図書館に設置し、学生に貸出し、ユーザビリティスタディに着手している¹⁾。

2. ラーニング・コモンズの形成

近年、大学図書館で「ラーニング・コモンズ」と名づけられた空間が整備されている。その前段階として、1990年代、北米の大学図書館にデジタル・メディアとコンピュータが導入され、閲覧や学習のスタイルの変更に伴い、これら機器の利用指導とそれを用いた研究支援を行うなど、従来からのレファレンス機能を拡張した「インフォメーション・コモンズ」が提唱された。つぎに、2006年頃から「学部教育の新たなパラダイム転換、すなわち学習理論が[知識の伝達]から[知識の創出・自主的学習]に移行したことを反映」して、「ラーニング・コモンズ」へ拡充されていった。

特徴的なのは、主たるユーザーが、変わったことである。教員・院生の大多数が自らの研究環境を充足していったため、ネット世代の学部生が中心となった。そのユーザーには次のような特色があるという²⁾。1)1980年以降に誕生、2)常にネット接続、3)マルチタスク・活動的、4)グループ学習志向、5)実地的学習を行ってきた、6)消費者であるとともに生産者、7)ビジュアル指向である。

このようなユーザーに対して図書館を中心とした施設は、以下のような施設・設備を備える。1)移動可能なパーティションなどによるフレキシブルな空間、2)グループ学習室、3)グループワークステーション、4)プレゼンテーション室などの共同作業向きの場所、5)カフェやラウンジなどの社交的な施設。³⁾

具体的な機能要件は、情報リテラシーを含めたレファレンスな

多様なサービス、スキャナー・プリンタを備え、画像編集やウェブ制作や電子出版の技術支援を受けることなど。大学におけるラーニング・コモンズの形成は、図書館の設備やサービスの更新だけではなく、受け身ではなく、創造的な学習を前提とした教育理念や図書館以外の教育組織と連関していることがわかる。

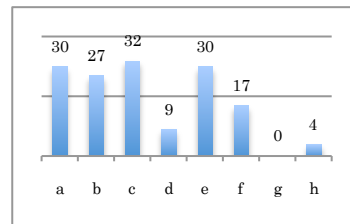
3. アンケートの分析方法と主眼

電子書籍閲覧端末の有無、関心についても把握するためラーニング・コモンズ設置校、未設置校ともに集団に組み入れる層化抽出を念頭に置いた⁴⁾。ただし各層の標準偏差値をふまえていないので厳密な統計調査とは異なり、質的に読み解いた。

大学図書館が現在どのような来館者サービスを実施し今後どのような展開をみせていこうとしているか、将来の図書館のあり方にどのような要望を持っているか、回答の内容から、その傾向を読み取ることを主眼とした。以下は、設問と回答の要約である。

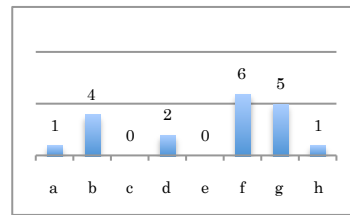
設問1：設置済みの情報機器（複数回答可）

- a. 有線 LAN b. wi-fi c. コピー機 d. スキャナ e. デスクトップ PC f. ノート PC g. iPad 等 h. その他



設問2：導入予定および導入希望の情報機器（複数回答可）

- 1) 有線&無線 LAN 保有機関の値が高い。2) iPad へ関心あるがノート PC も同程度でニーズがあると推察される。

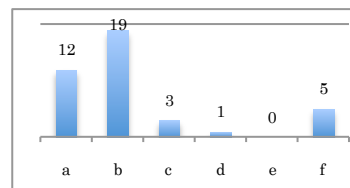


設問3：新しいメディアとしてiPadの可能性はあると思うか？

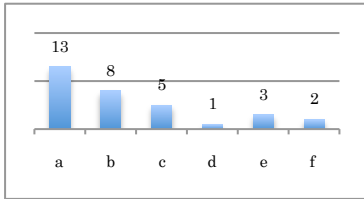
自由記述回答半数以上が可能性を認めるが価格やコンテンツの理由で導入は様子見段階。

設問4：現在行っているオンラインでの活動（※複数回答可）

- a. パスファインダー作成、b. ブログ、ポータルサイト、c. 電子書籍刊行、d. mixi、facebook、twitter 等ソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS)、e. YouTube 等動画共有サービス、f. その他



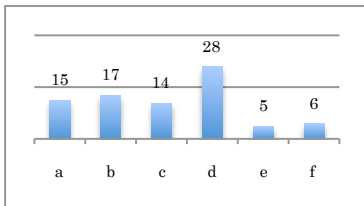
設問5：今後予定あるいは希望するオンラインでの活動（複数回答可）



ブログ、ポータルサイトに関しては既に保有している機関が多く、今後予定ないし希望するサービスと併せると、回答

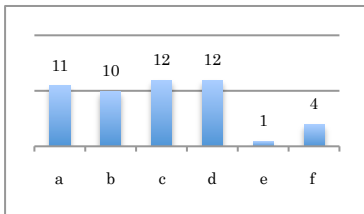
校のほぼ全数に近い。オンラインでのパスファインダーを希望する数値が高いことと併せ、ブログ形式のオンラインでの情報検索の手引きが今後充実されるものと推察される。

設問6：現在行っているオフラインでの活動（複数回答可）



a. 講演会等の開催、b. web についてのリテラシー講座、c. レポート等の作成指導、d. 展示、e. 出版活動、f. その他

設問7：今後予定あるいは希望するオフラインでの活動（複数回答可）



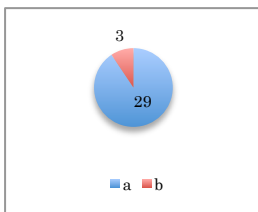
現状の活動のなかでは展示活動がよく行われている。出版に関しては低い値。前述の電子書籍の活動と併せても、今後、

図書館が一般的な意味での出版活動に着手する可能性は低いとみてよいだろう。ただし、理解が進めば、ブログ等が出版活動の場として捉えられる可能性はある。

今後予定、または希望する活動では、講演会とともにレポート等の作成指導が高い値を示す。学習支援はラーニング・コモنزの特徴の一つでもあるため、図書館サービスが現状ラーニング・コモنزに近くなっていく傾向が読み取れる。

設問8：閲覧室の平米数について（別に掲載）⁵⁾

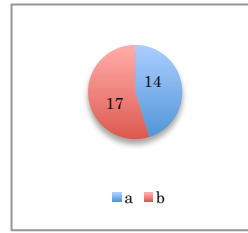
設問9：グループ学習環境 a：ある b：ない



グループ学習環境はすでに整備されている。ネット接続や柔軟な運用が可能な空間かどうか重要となっている。

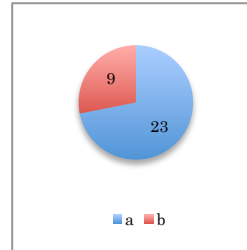
設問10：学習支援のためのスタッフ a：いる b：いない

現状では55%が学習支援スタッフが未設置だが、設問7の結果と



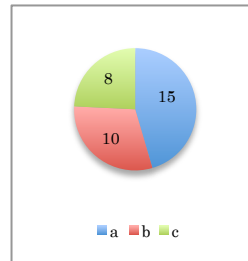
あわせてみると、今後数値は増加する可能性が高い。設置校では大学院生をTAとして配置している場合が多い。

設問11：展示ないしイベントスペース a：ある b：ない



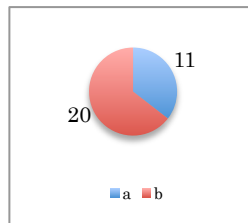
約70%の機関がすでに展示スペースを有している。

設問12：図書館または付帯するスペースでの飲食



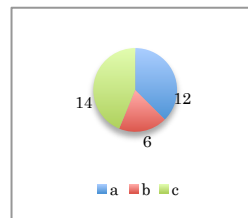
a.不可=46%、b.飲料のみ可=30%、c.可=24%という結果。飲料可はbとcの値の合計値となるので、半数以上の図書館で飲み物を持ち込むことを認める。この値はラーニング・コモنز設置校の値とほぼ重なる。

設問13：「ラーニング・コモنز」名のスペース。 a：ある b：ない



65%がb.ないを選択。設問1~7のように、名称に関わらず、サービスを実践する機関もある。図書館を改修する場合、ラーニング・コモنز名で改修の結果をアピールする例が多い（新潟大学、金沢大学など）。図書館新設の場合、機能的にラーニングコモنزを実現（はこだて未来大学、大手前大学）。

設問14：ラーニング・コモنزなど、スペースを設置したいか



a.はい=37% b.いいえ=19% c.設置済み=44% 今後のラーニング・コモنز化は必須。

設問15：設問14でa.はい、を選んだ方にお聞きします。設置できるとしたらどんな活動を行いたいですか（a 選択 12 校中、11 校の回答）。

・メディア利用の自習・プレゼン・発表スペース。多様な情報に

アクセス可能な環境提供、個別学習グループ学習を支援する活動。

- ・リテラシー支援を中心にした図書館主催のイベントが実施可能なスペース。PCやプロジェクター等の配置を前提。
- ・学習・教育研究のための図書館及びICT利用支援。
- ・図書館全体で開催する行事（情報検索講習会等）や教員や学生が主体となる教育研究関連イベント。
- ・現在のグループ学習環境が設備的に不十分なので、拡大できればという意味で設置したい。様々な形のゼミ学習・グループ学習に対応できるような可動性のあるスペースがあるとよいと思う。
- ・学生が自由にグループ学習や討論、共同作業ができる快適な学習環境を整備して、学生の自学自習を支援したい。
- ・院生（TA）に午後の時間帯に専用スペースにいてもらい、様々なアドバイスを学生にしてもらえるような体制をとりたい。
- ・実習型ガイダンスを掘り下げた形で実施したい。課外でのグループ学習のためのスペースの提供。紙媒体と電子媒体の両方の資料を、検索から加工までワンストップで利用できる環境の提供。学習方法や論文作成に関するアドバイス等。

・従来業務に限定しない、学習支援の充実（ex.キャリアガイダンス、留学生対応など）。ライティング指導や総合的な学習指導。

これらの回答をみると、グループ学習と同時に、プロジェクト等の設置により発表の場としての活用が望まれている。論文の書き方指導など、学習相談にも意識が向いていることがわかる。なお、現状ではラーニング・コモンズとして意識している空間には、iPadなど具体的なデバイスの利用形態は反映されていない。

4. まとめ

大学図書館におけるラーニング・コモンズの展開は、LANへの接続を終え、情報端末の貸出しやオンラインでの活動など、外部資料へ自由な閲覧とサービスへの関心を高めている段階であり、閲覧環境としての整備、さらに大学全体の教育との連携を探っている段階といえる。多くの大学でオフラインの学習機会をさまざまなかたちで行うなど、ラーニング・コモンズを名乗るかどうかはともかく、多様な閲覧環境を目指していることがわかった。

謝辞：ご多忙のなか、アンケート調査にご協力いただいた大学図書館、アーカイブの関係者の皆様に御礼を申し上げます。

註

- 1) 以下、本稿では触れないが、世界最大の建築アーカイブである Fondation Le Corbusier の図面アーカイブと閲覧環境、

サービスについて調査し、現物の建築も含めて、多様な資料保存と公開方法についての知見を得た。また、武蔵野美術大学美術館・図書館におけるデジタルアーカイブと家具、ポスター・アーカイブについて調査した。このことについては、武蔵野美術大学 美術館・図書館編『別冊 KALEO DOCUMENT MAU M&L/L』(2011) に詳しい。

iPad など情報機器のユーザビリティスタディについては、神戸芸術工科大学図書館の協力のもと、2010年から行っており、「デザイン文献学」講義と共に、オリジナルコンテンツの制作などの試行を行っている。

- 2) 米澤誠、「インフォメーション・コモンズからラーニング・コモンズへ：大学図書館におけるネット世代の学習支援」、『カレントアウェアネス 289』、0920,2006.
- 3) 同上
- 4) アンケート送付校：52（回答数：31）。対象校：層化抽出（ラーニングコモンズ設置校とそれ以外）、実施時期：2010年7月。
- 5) 設問 8、閲覧室の広さ、席数についてのデータを文末に置いた。閲覧室の環境調査において重要な資料であるが、機能分担や運用方法についての調査分析は今後の課題とした。

設問 8：閲覧室の平米数について

	機関名	面積	席数	備考
1	広島工業大学附属図書館	2247	443	
2	追手門学院大学附属図書館	2167	560	
3	国士館大学附属中央図書館	2891	786	
4	公立はこだて未来大学情報ライブラリー	529	156	
5	神戸市外国語大学学術情報センター	953	290	
6	慶応義塾大学三田メディアセンター	4075	896	
7	奈良女子大学附属図書館	987	319	
8	東北大学附属図書館	5706	1162	
9	明治大学生田図書館	2023	749	
10	大阪大学附属図書館総合図書館	7012	1439	
11	国際基督教大学図書館	3000	369	
12	流通科学大学附属図書館	770	380	
13	神田外語大学附属図書館	3821	306	
14	上智大学図書館	不明	1900	約 1900
15	神戸大学附属図書館	6998	1753	9 館合計
16	武蔵野美術大学美術館・図書館	4411.14	350	
17	新潟大学附属図書館	3028	807	
18	日本工業大学 LC センター	不明	296	
19	お茶の水女子大学附属図書館	1644	260	
20	多摩美術大学図書館	2500	350	
21	名古屋市立大学附属図書館	950	200	分館（最大）
22	京造形芸術大学図書館	2147	459	
23	大手前大学・大手前短期大学図書館	1803	272	
24	東京女子大学図書館	3721	733	
25	京都工芸繊維大学附属図書館	3170	442	
26	法政大学図書館	8016	2871	
27	同志社大学今出川図書館	2660.1	1137	
28	京都大学附属図書館	6785.97	1289	
29	金沢大学附属図書館	10456	971	中央館のみ
30	神戸学院大学図書館	6441.72	1098	
31	立命館大学図書館	29616	4117	6 館計
32	三重大学附属図書館	3716	668	
	神戸芸術工科大学図書館（参考）	2,031	200	